

7か国語で「核兵器廃絶」を呼びかけ！ G7広島サミット・市民行進



県原水協、県被団協など10団体でつくる「G7広島サミットを考えるヒロシマ市民の会」はサミット中日の20日、市内商店街で“G7広島サミットに被爆地の声を”と掲げて「市民行進」を行いました。行進には被爆者や「カクワカ広島」共同代表の田中美穂さんなど若い世代をはじめ、兵庫水協など県外、そして海外からも参加者があり250人に膨れ上がりました。参加者は、日英仏独伊中口の7か国語で表した「核兵器廃絶」のプラカードを掲げ、「平和を」の歌を歌いながら金



座街→相生通り→本通り→金座街と1周。NHK・テレビ朝日・九州朝日放送・BS11・共同通信・読売新聞・中国新聞・西日本新聞・赤旗のほか、スペイン・台湾・香港・韓国・オランダなど海外のメディアも取材し、参加者にインタビューしていました。香港の「フェニックステレビ」からインタビューを受けた高橋信雄代表理事は「G7の役割はもう終わり」と強調していました。

写真上と中は5月14日に開催した「市民集会・シンポジウム」。日本パグウォッシュ会議の広渡清吾さんが特別報告。4人のシンポジストによるシンポジウムを行いました。

写真下は5月19日のサミット開会に合わせて行った八丁堀交差点でのスタンディング。飛び入り参加も。

